

もみ数過剰と倒伏に注意! 穂肥診断は確実に!!

1 生育概況

7/10 現在の生育 草丈：並 茎数：多い 葉数：並 葉色：やや濃い
※コシヒカリ (指標値比) (101%) (110%) (-0.1葉) (SPAD値+1.5)

- 「コシヒカリ」の生育は、茎数淘汰がゆるやかで、茎数過剰の状況が続いています。また、これまで短かった草丈も急激に伸長し、葉色もやや濃い状態が続いています。
- 茎数が多いことから、穂数が多くなり、もみ数過剰となることが予測されます。さらに、葉色がやや濃く、下位節間の伸長による倒伏の発生が懸念されます。
- 「こしいぶき」の生育は、草丈は並、茎数は多く、葉色は濃くなっています。

2 今後の管理

- 中干し終了から幼穂形成期頃までは浅水の間断かん水を実施し、その後は徐々に飽水管理へ移行して根の活力を維持してください。
- コシヒカリの出穂は、高温の影響により平年より1日程度早まると見込まれます。(5/10~15の田植では8/4頃が出穂期、7/12頃が幼穂形成期、1回目穂肥時期は7/17~20頃)
- 1回目の穂肥は、葉色がやや濃いことから施用時期を遅らせることを基本に、ほ場ごとに幼穂形成期の草丈、葉色を必ず確認し、施用時期と量を決めましょう。(下表参照)

表 コシヒカリの幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による1回目の穂肥診断

草丈	葉色	並	濃い
		SPAD値 34~32	SPAD値 35以上
75cm以内		時期・量とも基準どおり施用	時期を遅らせて施用
75~80cm以内		施用量を減らす	時期を遅らせ、施用量を減らす
80cm以上		施用しない	施用しない

- 「こしいぶき」の2回目穂肥は、確実に施用しましょう。施用時期は出穂の14日前(5/10~15頃の田植では7/13頃)です。

3 生育調査結果 (7月10日現在)

	田植	草丈(cm)			茎数(本)			葉数(葉)			葉色(SPAD)			田植機 セット株数		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差			
コシヒカリ	下稲塚	5/12	71	104	102	603	32	124	88	11.0	-0.3	+0.1	34.9	+0.4	-5.4	60株
	高森	5/12	67	99	99	577	30	119	72	11.3	±0.0	+0.1	37.4	+2.9	-4.1	60株
	行法	5/14	67	99	108	504	35	104	73	10.8	-0.5	+0.1	35.1	+0.6	-4.9	50株
	長崎	5/14	68	99	116	494	26	102	86	11.1	-0.2	+0.2	35.8	+1.3	-2.1	60株
	広島	5/17	69	101	123	494	30	102	96	11.7	+0.4	+1.4	36.7	+2.2	+3.5	50株
	平均		68	101	109	534	30	110	82	11.2	-0.1	0.4	36.0	+1.5	-2.6	
こしいぶき	今熊	5/18	65	100	97	576	32	125	105	10.8	-0.2	-0.2	33.9	-2.1	-6.8	60株
	関山	5/25	51	88	116	407	21	102	120	10.5	-0.2	+0.9	38.6	+3.6	-6.7	60株
	下稲塚	5/12	70	108	104	561	31	125	97	11.2	-0.2	-0.6	41.1	+5.1	-4.8	60株
	長崎	5/18	58	90	112	451	23	100	87	10.6	-0.8	+0.5	37.8	+1.8	-1.0	60株
	広島	5/12	73	112	118	472	30	105	101	11.7	+0.3	+0.4	38.7	+2.7	+1.4	50株
平均		67	103	111	495	28	110	95	11.2	-0.2	+0.1	39.2	+3.2	-1.5		
今熊	5/15	60	92	87	466	26	106	79	11.6	+0.1	+0.4	36.4	-1.6	-5.4	60株	

4 北陸地方1か月予報(新潟地方気象台 7月5日発表)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

問い合わせ先 上越農業普及指導センター作物担当 (電話025-526-9406)